



日野市環境情報センター(愛称かわせみ館)は環境に関する情報を収集・分析・発信するために、2005年7月に市民・事業者・学校・行政の協働で開設されました。

2015(平成27年度)日野市環境白書が発刊されました

日野市では、環境基本条例に基づき環境に関する年次報告書として「日野市環境白書」を毎年12月に発刊しています。「環境白書」は日野市環境基本計画の柱である5つの分野、「みどり」「水」「ごみ」「地球温暖化」「生活環境」のそれぞれの分野ごとに環境指標を設定し、毎年の移り変わりを図表などで示しています。また、市民の皆さんの協力をいただいて、計画の進行状況の評価、確認を行っているほか、市の機関、市内の市民団体・学校・事業者などの環境への取り組みについても紹介しています。

2016年12月に発刊された「2015年度(平成27年度)日野市環境白書」では、日野市が2015年度に実施した環境への取組みのトピックスとして、「第2次日野市環境基本計画の中間検証を行いました」「日野市環境情報センターは開設10周年を迎えました」「第12回都市農業シンポジウム～市民参加により、日野の水田を活かし、残す～を開催しました」「水辺のある風景日野50選事業の新たな展開」の4つを紹介しています。

また、上記5分野の環境指標をみると、全部で49項目ある指標のうち、前年より「よくなったもの(目標70%以上達成含む)」が31項目、「わるくなったもの」が9項目、「どちらともいえない、判断できない」が9項目となっています。2014年度の白書と比べ「わるくなった」項目がやや増加しました。

「よくなった」の比率の高い分野は「水：8項目」や「ごみ：11項目」「地球温暖化：8項目」でいずれも7割を超え、水質やごみ排出量などが改善しました。

「みどり：14項目」と「生活環境：8項目」は「よくなった」の比率がともに5割で、「みどり」では「わるくなった」項目として農地面積の減少などがあげられました。

環境白書は市の環境に関する様々な情報を集約した内容となっていますので、是非ご覧ください。白書の内容は市や環境情報センターのホームページに掲載しているほか、市立図書館などで閲覧できます。入手を希望される方は環境情報センターまでお問い合わせください。



第50回日野市産業まつりで「かわせみ館ブース」開設！517人が来場、盛況でした

11月12日(土)、13日(日)に日野市民の森ふれあいホールで開催された第50回日野市産業まつりで「かわせみ館ブース」が開設されました。今回は連携事業を行っている中央大学経済学部田中ゼミの学生たちが8月に実施した「黒川清流公園に関するアンケート調査」の発表、同じく学生たちが監修した「水に関するクイズ」、そして「緑のトラスト募金」を実施しました。

アンケート調査は8月に黒川清流公園を訪れた市民74名を対象に、公園の評価や経済価値を探ることを目的に実施したものです。調査結果をパネル展示したコーナーには40名ほどの市民が訪れ、学生たちの説明に耳を傾けていました。市民の皆さんは入園料や寄付金をベースに公園の経済価値を把握しようと試みた調査の内容に大いに興味を持ってくれたようです。調査結果の概要は本号3ページ目の「黒川清流公園の評価と経済価値を探ってみました」をご覧ください。クイズは「水」の大切さを知ってもらう内容で、子どもたちを中心に市民368名が挑戦、クイズの答えを学生たちが解説し、中にはお子さんに熱心に説明する保護者の方もいました。回答者にはエココマ・エコアラシールやキーホルダー、色鉛筆セットなどの景品が渡されました。また、「緑のトラスト募金」も実施、市民の方々が協力してくれました。以上の方々を含め、かわせみ館ブースを訪れた人は2日間合計で517名でした。



かわせみ館ブース



調査発表パネルを見たリクイズに挑戦



調査結果をまとめたパネル

環境情報センターの機能が4月にオープンする「日野市立カワセミハウス」に移行します

今年の4月1日（土）の開館を目指し「日野市立カワセミハウス」の建設が進んでいます。カワセミハウスは豊田駅やイオンモール多摩平の森からのアクセスも良く、東豊田保全緑地と黒川清流公園という日野市が誇る身近で豊かな自然環境に隣接した絶好のロケーションの中に建つ環境情報センター機能と地区センター機能を持つ複合施設です。敷地面積は芝生広場も含めて約1,200㎡、建物は一部2階建てで延べ面積は約460㎡です。1階には環境情報発信ラウンジ、市民の皆さんが集うキッチンのあるオープンスペース、集会室（3室）などがあり、だれでもいつでも気軽に交流できるスペースとなっています。2階はロフト形式となっています。建物は多摩産の木材を柱や梁、フローリングなどに使った温かみのあるデザインです。

カワセミハウスの開館時間は9：00～21：30、休館日は原則毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）と年末年始の6日間です。3室ある集会室は午前・午後・夜間の使用区分で利用できますが、事前の申し込みが必要になります。カワセミハウスに移行する環境情報センターの主な機能は、環境情報の収集・分析・発信、市民を対象

とした環境セミナーの開催、児童の環境学習、環境問題の相談、市民環境団体の活動支援、施設の提供、大学や諸団体との連携、公共事業に伴う環境への影響評価などです。具体的には、「市民環境大学」や「みんなの環境セミナー」「小学校への環境学習出張講座」などの実施、「日野市環境白書」や「センター年報」の発行、「雑木林ボランティア講座」や「水辺の楽校」「ひの緑のトラスト」などの環境保全活動の支援などです。開館する4月1日には開所式や祝賀会を計画しています。詳細については広報ひのなどで改めてお知らせします。

所在地：日野市東豊田3丁目26番地の1



日野市の野鳥たち（その1）

日野市環境情報センター 村岡明代

<日野市の野鳥>

日野市には何種類の野鳥がいるのでしょうか。ちょっと難しい質問ですが、「日野市で過去に1度でも確認されたことのある鳥」ということでお答えすれば、日野市が行った「生物多様性地域戦力基礎調査（平成27年度）」で、これ以前に公表された9つの文献により日野市内で確認されている鳥類は217種とあります。このデータを更に2つの文献で補完した結果、日野市内で確認されている鳥類は218種（2016年10月現在）です。このリストから、個人的な観点ですが「ほぼ毎年見られる鳥」を抽出すると、留鳥（1年中いる鳥）が40種、夏鳥（夏になると外国から渡ってくる鳥）が9種、冬鳥（冬になると外国から渡ってきたり高い山から下りてくる鳥）が32種でした。つまり、夏で約50種、冬で約70種の野鳥が、日野市で暮らしているということになります。

これから3回にわたって日野市の野鳥たちを紹介します。今回は今の季節に見られる「冬鳥」を何種類かご紹介します。いずれも、冬になるとシベリアなどの北国から渡ってくる鳥です。

ジョウビタキ(スズメ目ヒタキ科)

住宅地や公園などで、高いところにとまって尾羽を振りながら、ヒッ、ヒッ、と鳴く姿をよく見ることが出来ます。スズメよりやや小さい小鳥で、メスは全身茶色っぽく地味ですが、オスは銀色の頭にオレンジ色のお腹でとても美しいです。冬にはオスもメスもそれぞれになわばりを持ちます。



ツグミ(スズメ目ヒタキ科)

住宅地や公園、丘陵地の雑木林、河川敷など、いろいろなところで見ることが出来ます。ムクドリぐらいの大きさで、全体に茶色っぽい色合いです。黒っぽいものや白っぽいものなど、色のバリエーションがあります。キョキョッ、という声で鳴きます。後出のシロハラが主に虫を食べるのに対し、ツグミは虫だけでなく木の実などもよく食べます。



マガモ(カモ目カモ科)

オスは、頭が光沢のある緑色でとてもきれいです。メスは全身茶色っぽくカルガモに似ていますが、くちばしの色が違うので区別できます。市内ではかつて多摩動物公園内の池が最大の渡来地でしたが、園内の池の改修により動物公園に渡来する数はかなり減りました。多摩川や浅川、黒川清流公園の池などでも見ることができます。



シロハラ(スズメ目ヒタキ科)

主に丘陵地などの雑木林で見られます。ツグミの仲間で、大きさもツグミとほぼ同じです。全身灰色がかった茶色ですが、お腹の部分だけ白いのでこの名があります。地面で落ち葉をひっくり返しながらかみを探す姿を探してみてください。クルッ、クワー、などと鳴きます。

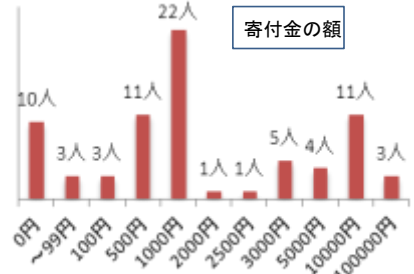


■黒川清流公園の評価と経済価値を探ってみました

～中央大学との連携事業で学生たちが調査しました～

日野市(環境情報センター)と中央大学経済学部は、地域の環境改善に向けた連携事業に取り組んでいます。このたび今年度の連携事業の一環として、黒川清流公園の評価と経済価値を探る「黒川清流公園に関するアンケート調査」を実施しました。調査は今年の8月に、学生たちが黒川清流公園を訪れた市民を対象に行いました。その結果をご紹介します。

- アンケートの回答者は74人で、内訳は男性32人、女性42人。年代は30代以下が27人、40代・50代が26人、60代以上が21人。お住まいは日野市が65人、日野市以外が9人でした。
- 公園を訪れる頻度は「よく来る(月に1回ほど)」32人、「ときどき来る(2～3か月に1回ほど)」30人、「初めて来た」12人でした。毎日のウォーキングや散歩、親子で水遊びなど幅広く利用されています。
- 公園の評価を100点満点で聞いたところ、100点の14名を含め80点以上が56人で、平均点は83点でした。100点をつけなかった方にその理由を聞いたところ、多かったのは「トイレが少ない」「駐車場がない」「遊具や遊び場がない」などでした。
- 公園の良いところ(複数回答)は、多い順に「緑が豊か」53人、「水が豊富」51人、「自然を身近に感じられる」34人、「子どもと安心して遊べる」27人などが挙げられました。訪れた人がゆったりくつろげる「水が流れる豊かな森」というイメージが強いようです。
- 「もし入園料が必要な場合、いくらくらいまで支払えますか?」という質問には「0円」16人、「～99円」11人、「100～199円」26人、「200～399円」20人、「500円」1人という回答で、平均は113円でした。
- 「公園が民有地と仮定して、緑と水を守るために公有地化するとしたらいくらくらい寄付できますか?」については「0円」10人、「～999円」17人、「1,000～1,999円」22人、「2,000～2,999円」2人、「3,000円」5人、「5,000円」4人、「1万円」11人、そして「10万円」が3人で、平均は6,450円でした。



今回の調査は公園の経済価値を「入園料」と「寄付金」という尺度でとらえましたが、なかなか興味深い結果が得られました。

■「第9期市民環境大学」講座生募集！環境問題に関心のある方参加してみませんか

市民環境大学は、地球規模から身の回りの環境まで幅広く考え正しく知ることで、問題解決のためにみんなでできることを実践することを目的とした講座です。講座は5月から7月の前期と、10月から12月の後期に分けて合計20回開かれます。前期・後期を通して出席された方には修了書をお渡しします。8期までの講座修了者は累計で119人です。講座の内容は身の回りの環境の基礎から大学で行っているような専門的なものまで含んでいますが、「地球温暖化の影響と対策」「水質汚染と対策」「日野市の水と緑」など、いろいろな事例や最近の話題などを取り上げ、わかりやすく説明していきます。用水や緑地の植物などについて現場で学ぶまち歩きも開催します。どうぞお気軽にご参加ください！OB会もあり月2回ほど活動しています。

<募集要項>

開催期間：前期 平成29年5月～7月(全10回)
後期 平成29年10月～12月(全10回)
時 間：毎週木曜日 午前10時～12時
場 所：カワセミハウス内集会室
対 象：18才以上の日野市在住者または在勤者
定 員：20名(先着順)
受 講 料：無料
申込締切：平成29年4月15日(土)

*お申込みは日野市環境情報センターへ電話またはFAXをお願いします。(最終面参照)

■「第13期雑木林ボランティア講座」講座生募集！雑木林の大切さを学びましょう

現在、放置されたままになっている雑木林は、わずか50年前まで私たちの暮らしにとってかけがえのない大切な場所でした。日野市雑木林ボランティア講座は、昔のような明るく健全な雑木林を維持管理し次世代に引き継ぐことを目的に、市民と行政の協働で平成17年にスタートしました。11期(平成27年度)までの講座修了者は累計で216人になっています。今期(12期)も30名の方が講座に参加しています。この講座を通して専門的な知識や技術を習得した雑木林ボランティアを育成し、新しい緑の保護団体を設立したり、既存の緑の団体で活躍してもらおうと頑張っています。講座は雑木林の基本的な講義から始まり、手道具、刈払い機、チェーンソーの実習など雑木林の管理ノウハウを、1年間(5月～翌年3月の全10回)にわたり習得するものです。是非、本講座に参加し、一緒に楽しい汗をかきながら雑木林の大切さを学んでいきましょう！

<募集要項>

主 催：水と緑の日野・市民ネットワーク他
開催期間：平成29年5月～平成30年3月
時 間：毎月、主に第2もしくは第3土曜日(全11回)
午前9時30分～午後3時
実施会場：南平丘陵公園他
対 象：日野市在住者または在勤・在学者
定 員：30名(先着順)
参 加 料：1,000円(資料代など)
申込締切：平成29年4月12日(水)

*お申込みは日野市環境情報センターへ電話またはFAXをお願いします。(最終面参照)

■10月～12月の活動報告

10月22日(土) みんなの環境セミナー「里山づくり」開催

10月22日(土) 9:30～15:00 雑木林ボランティア講座の公開講座として開催。午前中は市役所505会議室で里山の自然と保全活動をテーマとした講演会が行われました。講師は明治大学農学部教授倉本宣氏。雑木林管理の事例を通して里山では植生管理だけでなく、生物多様性の生態系管理が重要なことを学びました。午後は中央公園など近くの緑地で植物観察会。参加者は講座生20名、広報ひのなどで応募した市民9名、合計29名でした。

11月20日(日) みんなの環境セミナー「雑木林へGO! 親子で雑木林を体験しよう」開催

11月20日(日) 9:30～12:00開催、日野市環境基本計画推進会議みどりグループ主催。参加者は親子9組26名。黒川清流公園のあずまやでグループスタッフ手作りの紙芝居「カブトムシの一生」や「雑木林に関するクイズ」などを楽しんで「雑木林ってなんだろう？」を学びました。その後公園の中を植物観察をしながら移動し、トイレ前広場で東豊田緑湧会の小太刀氏から雑木林管理のお話を聞き草刈り体験をして、最後にカブトムシの幼虫探しをしました。保護者も子どもたちも夢中になって落ち葉だまりを掘りかえして2匹、3匹と捕まえていました。天気にも恵まれ、親子で雑木林の大切さと面白さを体験した一日になりました。



カブトムシを探そう

12月8日(木) みんなの環境セミナー「向島用水を見る・知る・探る」開催

12月8日(木) 10:00～12:00 市民環境大学の公開講座として開催。向島用水を訪れ、用水の整備の経緯について解説を聞きました。また、小倉センター長指導のもと浅川の水質調査をしたり、センタースタッフによる若宮神社境内の植物観察などを行いました。参加者は講座生12名、広報ひのなどで応募した市民8名、合計20名でした。

12月7日(水)～15日(木) 「日野の小動物たち」写真展

市役所1階市民ホールで開催。日野市生物多様性地域戦略委員会委員の井上録郎氏の協力により、タヌキやノウサギ、ヘビ、カエルなど林や田畑が住宅地に変わることによる生息環境の劣化などで数が減り、今では見るのが難しくなった日野市内に生息している小さな動物たちの姿や生態を約140枚の写真で紹介しました。小動物の生態を紹介する写真展は初の開催でしたが、多くの市民の方が興味深そうに見ていました。



1月～3月の行事・イベントのお知らせ

1月28日(土) みんなの環境セミナー「風力発電機をつくって地球温暖化をふせごう！」

日野市環境基本計画推進会議CO2グループと共催。親子でペットボトルを使った風力発電機を作ります。地球温暖化の影響などについてもわかりやすく解説します。定員は親子10組です。1月15日発行の「広報ひの」でお知らせします。

1月29日(日) みんなの環境セミナー「親子で楽しむ野鳥かんさつ」

日野の自然を守る会の金子凱彦氏らを講師に迎え黒川清流公園の雑木林で野鳥観察を行います。親子15組対象。冬の雑木林は野鳥がととてもよく見えます。1月1日発行の「広報ひの」でお知らせします。

1月6日(金)～12日(木) 「日野の野鳥たち」写真展

市役所1階市民ホールで開催。日野の自然を守る会の協力で日野で見られる野鳥たちを紹介します。1月1日発行の広報「ひの」でお知らせします。

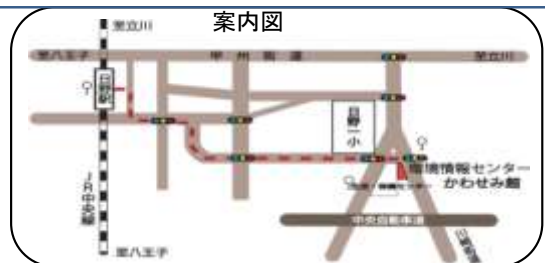
★日野市環境フェア★ 1月14日(土) 13:00～16:00 イオンモール多摩平の森 3階イオンホールで開催
エコマ・エコアラによる省エネ啓発ショーやカブトムシの幼虫プレゼントなどお楽しみに!



「ひの緑のトラスト」募金活動にご協力を

百草地区には貴重な雑木林が市民と行政の協働により残されており、市民による保全活動が活発に行われています。この貴重な里山の保全を進めるため「ひの緑のトラスト」が設立され、募金活動を行っています。

環境情報センターでは「ひの緑のトラスト」の事務局として、募金活動などを担当しています。市内の緑地保全のための募金にご協力をお願いします。詳細は環境情報センターまでお問い合わせください。



発行 日野市環境情報センター かわせみ館
〒191-0011 東京都日野市日野本町1-6-3
Tel/fax: 042-581-1164
Eメール: kawasemikan@jcom.zaq.ne.jp